



環境戦略

DAIKEN 地球環境ビジョン 2050 実現に向けた取り組み

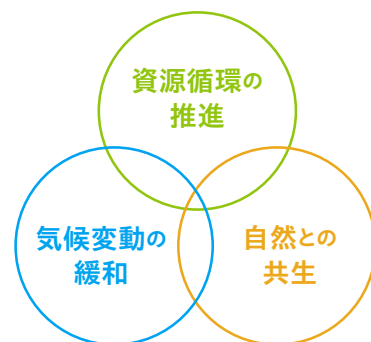
DAIKENグループにおける環境課題への長期的な取り組み姿勢と方針、目標を定めた「DAIKEN地球環境ビジョン2050」を2021年10月に策定し、2025年4月に改定しました。本ビジョンの実現に向けて「資源循環の推進」「気候変動の緩和」「自然との共生」の3つの視点で持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、環境課題をはじめとする社会課題解決に取り組んでいきます。

DAIKEN 地球環境ビジョン 2050

ビジョン

“笑顔あふれる未来”のために

DAIKENグループは、2050年に向け、資源循環の推進、気候変動の緩和、自然との共生を通じて、持続可能な社会の実現をめざしていきます。



環境方針



1 資源循環の推進

—廃棄物の削減、資源の再利用—

適切に管理された森林資源の積極的な活用により、森林循環を促進するとともに、廃棄ではなく、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルなどによる資源の再利用を通じて、サーキュラーエコノミーの実現に貢献し、社会全体での持続可能な資源循環をめざします。



2 気候変動の緩和

—カーボンニュートラルの実現—

自社の温室効果ガス排出量削減はもちろんのこと、サプライチェーン全体で削減し、森林・木材資源の活用により、炭素貯蔵の拡大、吸収源の維持・循環に貢献し、社会とともにカーボンニュートラルの実現をめざします。



3 自然との共生

—生物多様性の保全—

生物多様性に配慮し、環境の負荷低減、保全、修復への貢献により、生態系が保たれた持続可能な自然環境との共生をめざします。

長期目標

1 廃棄物の再資源化率100%

- カスケード利用を前提に、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルの推進
- 廃棄物の最終埋立処分量削減
- 原材料の調達から製品の使用、廃棄までの一連の流れの中での廃棄物の削減
- 資源回収と再利用の促進 など

2 温室効果ガス排出量ネットゼロ

- 生産性向上、効率化による省エネの推進
- 再生可能エネルギー利用の拡大
- 製品のライフサイクルでのCO2排出量抑制に貢献する製品設計の強化
- 炭素を貯蔵している木質素材、製品の拡大
- 管理された森林の積極的な活用により、再造林の推進に貢献
- 植林によるCO2吸収源の維持・循環への貢献 など

3 自然環境への負荷低減(森林破壊ゼロ)

- 持続可能な木材調達の推進
- 化学物質の適正管理・排出量削減
- 水資源の有効利用促進
- 化石燃料由来のプラスチック使用量削減
- 生態系の保全や回復に向けた取り組みの推進 など

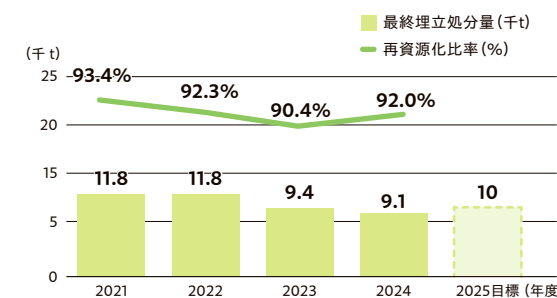


資源循環の推進 — 廃棄物の削減、資源の再利用 —

廃棄物の最終埋立処分量の削減

最終埋立処分量 23.3%削減 ※2021年度比

DAIKENグループでは、循環型社会の実現を目指し、製造工程で発生した不良品などを可能な限り製品原材料として再利用し、製品原材料として使えない場合でも、燃料としてサーマル利用するなど、廃棄物の再資源化を推進しています。2024年度は土壌改良材としての活用によりマテリアルリサイクルが進み、2023年度に比べて最終埋立処分量が減少し、再資源化比率も改善しました。引き続き再資源化を推進していきます。



木材の資源循環

DAIKENグループでは、建築解体木材や製材廃材などの木質資源を活用し、木質繊維板の製造やそれらを使用した内装建材などを製造しています。木材はCO2を吸収して成長する再生可能な資源であることから、適切に管理された木材や間伐材などの利用、さらに余すことのない木材活用を推進することで資源循環を行い持続可能な社会に貢献していきます。



サーキュラーエコノミーの実現へ

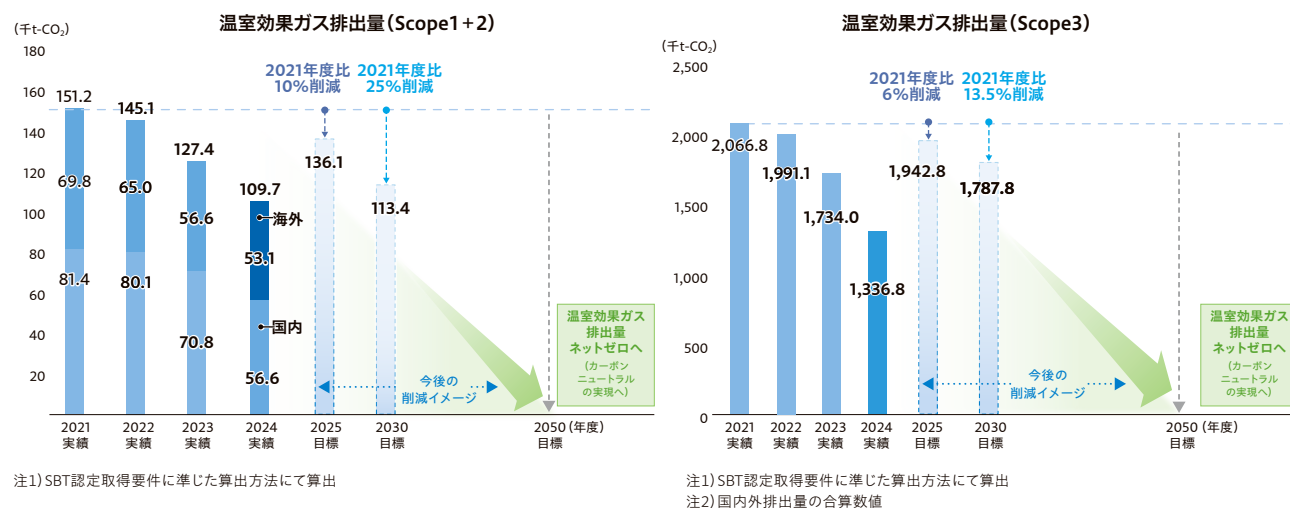
木質資源の有効利用として、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルなどの資源の再利用を推進しています。また、現状廃棄されているものも資源としてとらえ、リサイクルなど効果的な利用を行うことでサーキュラーエコノミーの実現を目指していきます。





気候変動の緩和 — カーボンニュートラルの実現 —

温室効果ガス排出削減の取り組み **Scope1+2 27.5%削減** **Scope3 35.3%削減** ※ 2021 年度比



DAIKENグループでは、カーボンニュートラルの実現に向けたマイルストーンとして、2025年度と2030年度の温室効果ガス排出削減目標を2021年度比で設定しています。2030年度目標はパリ協定が求める水準と整合する科学的な根拠に基づいた「2℃を十分に下回る目標 (Well-below 2℃)」として2023年6月に国際的なイニシアチブSBTi(The Science Based Targets initiative)の認定を取得しました。引き続きカーボンニュートラルの実現を目指して再生可能エネルギーの活用や省エネ活動、生産性向上の取り組みによる排出量削減に努めていきます。



木質素材事業 (IB、MDF) の炭素貯蔵量 **657.9 千t-CO₂**

木材は成長過程でCO₂を吸収したあと炭素として固定し、その後マテリアルとして利用し続けることで炭素を貯蔵し続けます。当社の木質素材事業での2024年度の炭素貯蔵量の実績は、657.9千t-CO₂でした。一方、当社のScope1+2+3は約1,447千t-CO₂でした。今後は貯蔵量を増やししながら温室効果ガスの削減活動を進め、炭素貯蔵量が自社の温室効果ガス排出量を上回る姿を目指して、カーボンニュートラル社会に貢献していきます。

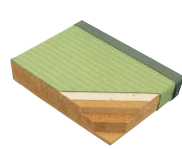
製品単位の炭素貯蔵量を開示

木質素材を使用する主要製品の一部において、製品ごとに含まれる炭素貯蔵量 (CO₂換算) を、開示しました。



**イエリアフロア
スタンダード**

炭素貯蔵量 約**12** kg-CO₂
※1m²あたり



**ダイケン畳 健やかくん
(健やか畳床 2000ECO)**

炭素貯蔵量 約**30** kg-CO₂
※1畳あたり



**イエリア片開きドア
00デザイン**

炭素貯蔵量 約**35** kg-CO₂
※扉・枠1setあたり (サイズ:755幅・2033高)

住宅一棟に使用される
DAIKEN 製品の炭素貯蔵量



床材製品の一部で SuMPO EPDを取得

床材の主力8製品にて、環境製品宣言ラベルであるSuMPO EPDを取得しました。第三者検証を実施し、定量的な環境情報を開示しました。



※EPD: Environmental Product Declarationの略。ISOに準拠し、製品の環境情報を透明性高く算定・開示する枠組みのこと。(SuMPOは日本におけるEPDの運営組織)



EPDを取得した床材
『コミュニケーションタフII DW』

SuMPO環境ラベルプログラム
『SuMPO EPD』取得製品一覧



自然との共生 — 生物多様性の保全 —

持続可能な木材調達に向けて

ダイケンサラワク社の植林地でPEFC-FM 認証を取得

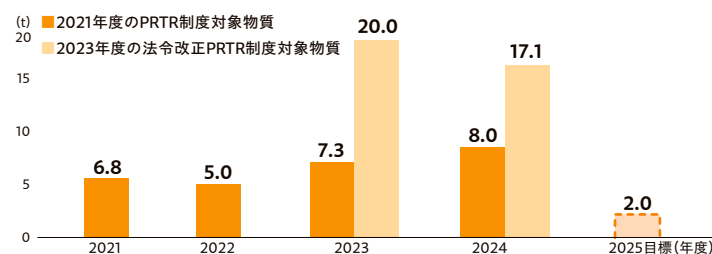
木質原料の安定調達の実現に向け、2002年からマレーシアのサラワク州でアカシアの植林を行っています。2025年の3月には連結子会社であるDSK社が所有する林地 (広葉樹林) において、PEFC-FM 認証を取得しました。本認証は持続可能な森林の基準・指標に従って森林経営が行われていることを評価・認証する森林認証の一つです。DSK社では、優れた耐水性を特長とする広葉樹系MDFを製造しており、DAIKENグループとして国内で初めて認証された広葉樹を原材料とする認証材MDFを供給できるようになりました。日本国内における「MDFおよび木質系床材」のリーディングカンパニーである当社が、他社に先駆けて広葉樹系認証材MDFの生産体制を確立することで、今後の床材業界における認証材使用の機運を高めるとともに、持続可能な社会の実現にも、より一層貢献していきます。



化学物質の排出量削減

PRTR 制度対象物質 **17.4%増加** ※ 2021 年度比

PRTR制度対象物質排出・移動量の推移



DAIKENグループでは、PRTR制度の対象となる物質について、排出量・移動量の把握と削減に努めています。2023年度より新たに子会社が加わったことで増加傾向にありましたが、代替品の検討は完了しており2025年度には減少の見込みです。今後も他の対象物質の削減に継続的に取り組み、グループ全体での環境負荷低減を推進していきます。

水性接着剤への代替を通じて、環境負荷低減へ

木質系複合フローリングの生産工場にて、「水性接着剤」の塗布設備を増設しました。従来「ポリウレタン系接着剤」を使用していた製品について、可能な限り水性接着剤に切り替えて環境に配慮した製品の生産に努めていきます。



Pickup

小学校で環境に関する出張授業を実施

環境への意識・興味を育むことを目的として、都内の小学校にて森林保護や木材活用に関する授業を実施しました。生き物の棲み家である森林や木をテーマに、「森の手入れとして木を切り、切った木を使うことが森を守ることにつながる」という木材活用の意義の説明や、木材チップを画用紙に貼りつけ生き物の家を作ってもらうワークを開催し、児童たちが自然や生き物に関心を向けるきっかけづくりを行いました。

